

Part-1



総合ガイド



1…古代出雲歴史博物館の概要

2…利用案内

3…施設の紹介

Part 1 古代出雲歴史博物館の概要



■建設の経緯

1984年7月、斐川町の荒神谷遺跡から358本もの弥生時代の銅劍が出土しました。この数量は、それまで全国で出土した銅劍の総数を上回るものであり、全国に衝撃を与えました。また、翌年には同遺跡から銅矛16本、銅鐸6個が出土し、出雲を舞台とした壮大な神話とともに、古代出雲文化の底知れぬスケールにあらためて注目が集まりました。

これを契機に、島根県では、1989年に「島根古代文化活用委員会」を設置し、検討を開始しました。その後の主要な経過は右の年表のとおりです。

この間、1996年には加茂岩倉遺跡から39個もの銅鐸、2000年には出雲大社境内遺跡から3本束ねの巨大柱など、多くの貴重な文化財の発見が相次ぎました。

本県では、国宝を含むこれらの文化財の保存、展示・活用を、課せられた大きな使命ととらえ、これにふさわしい博物館を整備する方針を固めました。それと同時に、順次、多分野にわたる研究員を県内外から採用し、十数年にわたって調査研究の蓄積を行ってきました。そして、2007年春、ついにこれらの成果を展示・活用できる博物館、「古代出雲歴史博物館」が誕生しました。

整備に関する主要経過	
1989	■「島根古代文化活用委員会」の設置
1990	■「島根の古代文化活用への提言」 ⇒島根の古代文化を調査研究・活用するために、拠点となる「古代文化センター（古代研）」の設置と、島根の古代文化展の開催を提案。
1992	■「古代文化センター」の設置
1994	■県の長期計画（1994-2010）に「歴史民俗博物館（歴博）」の建設計画が盛り込まれる ⇒調査研究の成果と展示ノウハウが十分に蓄積された段階で、常設展示の場として歴博を新設する計画。
1997	■「古代出雲文化展」を東京・大阪・松江で開催 ⇒約45万人の観客動員を記録。
1999	■「歴博・古代研基本構想」 ⇒古代文化を中心とした島根県の歴史と文化を調査研究し、その成果を発信、活用していくための拠点施設として歴博を設置することを提言。
2001	■「歴博・古代研開設準備委員会」の設置
2002	■歴博・古代研、建築設計者等の決定 ⇒歴博の建築設計は株式会社一級建築士事務所。
2003	■歴博、建設工事着工
2004	■歴博、正式名称を「島根県立古代出雲歴史博物館」に決定
2007	■歴博、3月10日開館



■歴博のみどころ・お楽しみスポット

総合展示 特色ある島根の歴史を、原始・古代から近現代まで通史的に…

「島根の人々の生活と交流」をテーマに、時代の変遷とともにその営みを概観します。中でも、「弥生王墓」「古代出雲の玉作り」「石見銀山」「たたら製鉄」などは重点的に展示します。詳しくは、「Part-2 展示ガイド」（P.13～）で。

テーマ別展示 出雲大社の巨大柱、日本最多の銅剣・銅鐸、そして全国唯一の完本風土記は何を語るのか？

「出雲大社と神々の国のまつり」「出雲國風土記の世界」「青銅器と金色の大刀」。島根の特色ある古代文化の展開を3つのテーマに再構成し、現代に息づく古代文化の姿を探ります。詳しくは、「Part-2 展示ガイド」（P.13～）で。

神話展示・神話シアター 映像や音響を駆使して、出雲神話を体感！

あなたは、出雲神話を彩る神々やオロチをイメージできますか？ 神話シアターでは、『古事記』や『出雲國風土記』に登場する神々の物語を迫力ある映像で紹介します。詳しくは、「Part-2 展示ガイド」（P.13～）で。

インフォメーションセンター（情報交流室） 島根の史跡・文化財や観光文化施設の情報をサポート

充実した図書やビデオに加え、最新のパソコン検索システムによって様々な情報を入手できます。さらに、学芸員やアテンダント（案内係）による情報提供やレファレンスサービスも行います。詳しくは、「Part-3 交流ガイド」（P.29～）で。

講義室 講演会やゼミナーで、あなたの歴史探究心を刺激！

講演会やゼミナーを定期的に開催します。なお、講演等で使用していない時は、懐かしのお宝映像の数々を上映するなど、多目的に活用する予定です。詳しくは、「Part-3 交流ガイド」（P.29～）で。

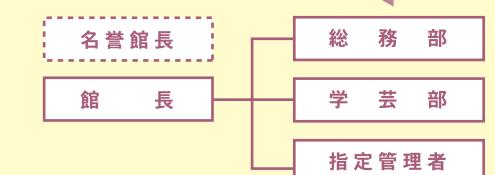
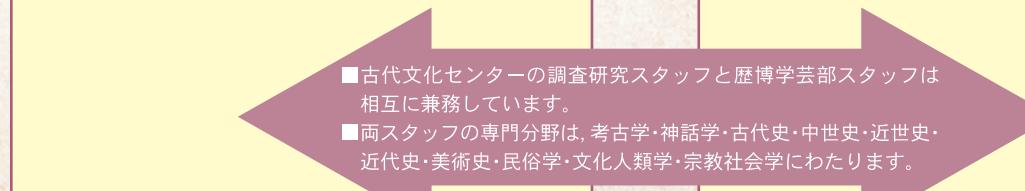
体験工房・体験水田 緑あふれる自然環境の中で、存分に体験活動を！

学校団体を対象とする「ミュージアム・スクール」の主会場です。様々な体験プログラムを用意していますので、展示見学とセットでご利用ください。詳しくは、「Part-3 交流ガイド」（P.29～）で。

■歴博・古代文化センターの業務・組織

古代出雲歴史博物館

- 島根の歴史資料や文化財の収集・保管管理
- 展示計画の立案・展示運営
 - 1. 他館・他機関と連携した巡回展・特別展
 - 2. 古代文化センターと連携した企画展
- 島根の歴史文化を理解するための普及事業の立案・実施
- レファレンス、案内
- インターネット配信や、ニュース・図録・博物館年報の発行等による情報発信



古代文化センター

- 島根の古代文化に関する基礎調査研究
 - 「地域間交渉調査研究」「風土記調査研究」「祭礼行事調査研究」「社寺調査研究」「海外学術調査研究」
- 特定テーマを設定して調査研究（テーマ研究）
 - ⇒成果の一部は歴博の企画展で公開
- 研究成果の情報発信
 - 1. 講座、シンポジウム、研究会
 - 2. 研究紀要、研究報告の刊行
 - 3. インターネット配信



■歴博がめざすもの

《全国への文化発信》

島根の特色ある歴史と文化を広い視野から調査研究し、物と情報を体系的かつ継続的に収集し、その成果を全国に向けてアピールしていきます。

《調査研究を活発に行う博物館》

創造性に満ちた地域づくりに貢献していくために、最先端の調査研究を継続的に行い、常に新しく、親しみのもてる展示や情報の提供を行います。調査研究にあたっては、様々な研究分野と連携を図り、国内外の研究機関やみなさんとの双方向の交流を行います。

《国際的な視野で活動する博物館》

島根の歴史と文化は、国内外との広範な交流の中で育まれてきています。なかでも東アジア地域との歴史的・文化的な交流を視野に入れた調査研究を進め、島根という「個別」地域から、「普遍」的な文化を解明していきます。

《島根県の歴史・文化の継承と発展の拠点となる博物館》

島根県の歴史と文化に関するネットワークの結節点として、県内の博物館・資料館やみなさんと協力・連携を図り、調査研究や展示を行うとともに、情報の提供や資料の保護につとめます。これにより、みなさんに郷土の成り立ちを理解していただき、新しい文化の創造に寄与していきます。

《開かれた、親しみのもてる博物館》

県民参加の場、学校教育とも密接に連携した学習機会の場として、地域に開かれた交流活動を行います。また観光客を含め、大人から子どもまで親しみやすく、常に新しい感動と発見を与え、何度も来館したくなるような、人・物・情報の交流拠点とします。



Part 1 2 利用案内

■開館時間：9:00－18:00

※ただし、11月～2月は 9:00－17:00

※ご希望があれば、ご予定に合わせて開館時間を早めることもできます(要予約・団体のみ)。

■休館日：毎月第3火曜日 (その日が祝日の場合は、その翌日が休館日)

■観覧料

◎常設展：一般600円(480円)／大学生400円(320円)／小中高生200円(160円)

※()内は20名以上の団体料金。

◎企画展・特別展：その都度、別に定めます。

◎年間パスポート券：一般1,500円／大学生1,000円／小中高生500円

【減免制度について】

※学校が編成した教育課程に基づく活動により教職員に引率されて観覧する場合は、事前に観覧料減免の申請を行うことで、全額免除の措置をとることができます。詳しくは、「Part-6資料編～3.歴博利用の各種申し込み方法～」(P.140～)をご参照ください。

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、およびその介護者は、観覧料が全額免除されます(事前申請不要)。

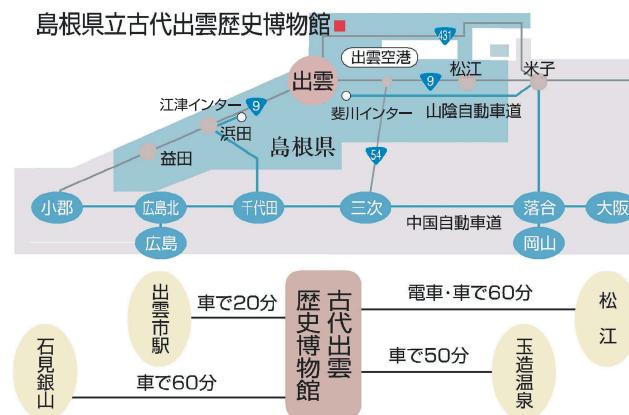
■交通案内

◎一畑電鉄：「出雲大社前駅」下車、徒歩7分

◎一畑バス：JR出雲市駅より「出雲大社行き」、または「出雲大社・日御崎行き」バスで25分、バス停「正門前」下車、徒歩3分

◎駐車場：普通車244台、大型バス15台(乗務員休憩室あり)、身障者用6台

◎駐輪場：90台



■マスコットキャラクターとシンボルマーク・ロゴタイプ

◎マスコットキャラクター

全国から409点の応募があり、審査会を開催して最優秀作品(左)を決定しました。また、親しみを増すため、最優秀作品のペアとなるキャラクター(右)も作成し、愛称も公募により定めました。



◎シンボルマーク・ロゴタイプ

デザインは、島根県立芸術文化センター・グランツワのシンボルマーク等のデザインを手掛けたグラフィックデザイナーの矢萩喜徳郎氏(1952年生)によるものです。銅鐸の文様をかたどり、全体を青銅色でまとめ、わかりやすくダイレクトに表現しています。また、和文ロゴタイプも矢萩氏オリジナルの書体です。



島根県立古代出雲歴史博物館
Shimane Museum of Ancient Izumo

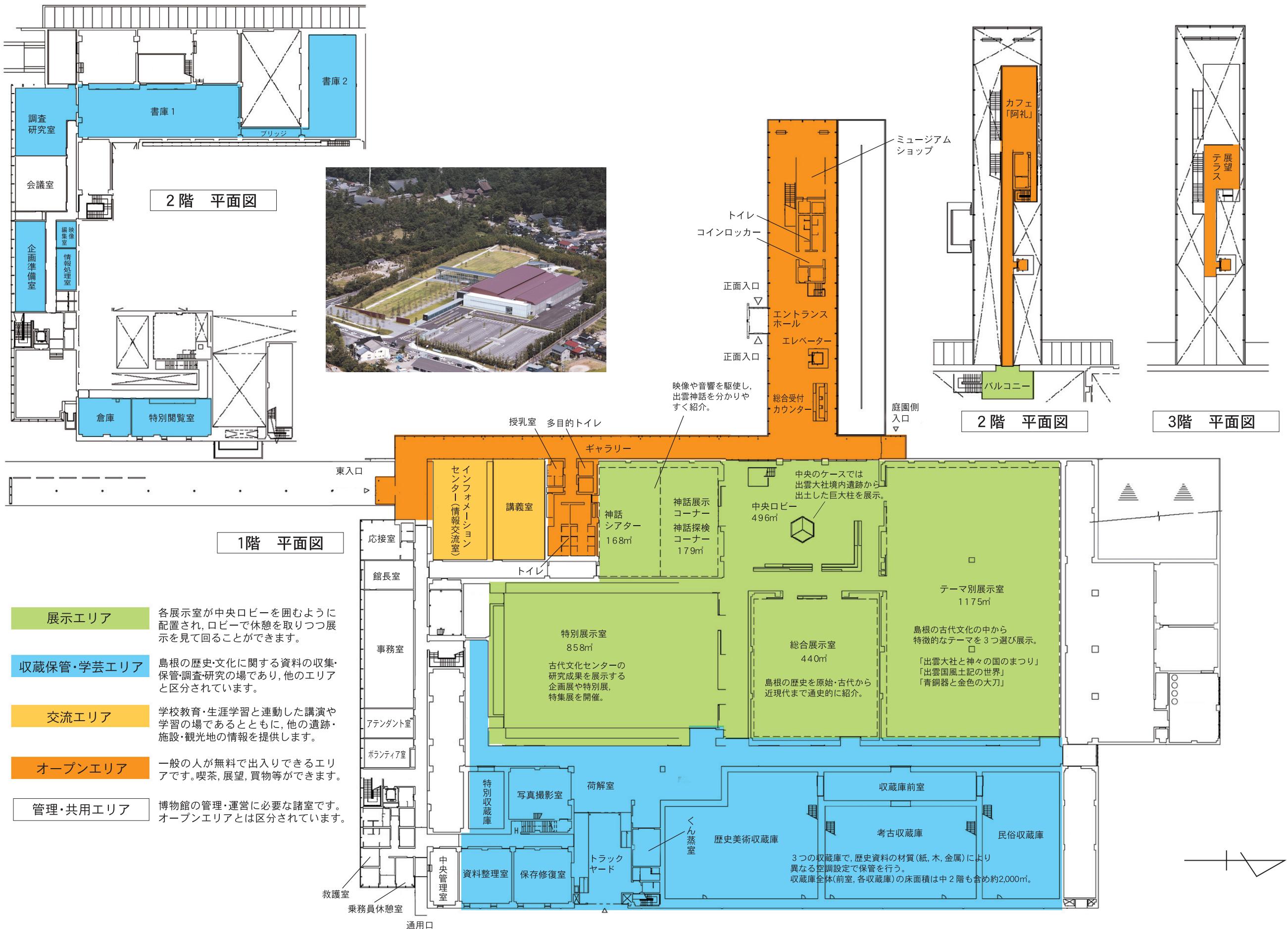
■お問い合わせ

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東99-4 TEL:0853-53-8600(代) FAX:0853-53-5350

<http://www.izm.ed.jp/> E-mail:contact@izm.ed.jp



古代出雲歴史博物館館内平面図



古代出雲歴史博物館 外構平面図

桂の並木道: 1



古代の出雲大社の引橋(階段)は1町(約110m)あったといわれています。正面入口への並木道も約110m。縞模様で階段のように見えませんか。古代出雲大社の壮大さを感じながら並木道を歩いてみてください。

桂の並木道: 2

島根の歴史でも重要なたたら製鉄。製鉄を伝えた金屋子神が、白鷺に乗って桂の木に舞い降りたという神話にちなんで、正面入口へ続く通路は桂の並木道になりました。

桂の葉っぱは、縁結びをイメージさせるハート形をしています。



ポスト

昔ながらの赤い丸型ポスト。なんとこのポストは、島根県浜田市出身の指物師・俵谷高七さんが、1901年に下関で開発したものです。

もちろん、今でも実際に郵便物を出すことができる現役のポストです。

コルテン鋼の壁



本館西側とプラザの壁は赤茶色。この壁は、コルテン鋼という表面を錆びさせた鋼板です(表面の錆が内部への腐食を防ぐ特殊な鋼板)。

たら製鉄にちなみ、時代を経た鉄の重厚なイメージを醸し出しています。

ガラスのエントランス棟



全面ガラス張りのエントランス棟は、背景を透かし見るために、徹底して透明感にこだわった設計になっています。

現代風の建築を通して、四季にうつろう北山山系の景観をお楽しみください。

風土記の庭

敷地の西に広がる庭園は、北山山系の眺めと調和し、見る人に悠久の歴史を感じていただけるよう設計されました。

北山に呼応するよう緩やかな起伏をつけた庭園です。是非、園路をご散策ください。

風土記の道



庭園西側の真っ直ぐな園路には、『出雲国風土記』の国引きの一節が大きな文字で彫り込まれています。読みながら歩いて、疲れたら来待石のベンチで一休み。なんと書いてあるかは水盤のそばまでいくとわかります。

正面入口

東入口

体験工房

体験水田

体験ゾーン

外もゆっくり歩いてみたいね

桂の並木道はおすすめよ



水盤

出雲の入海(宍道湖・中海)をイメージした水盤の下には金属製の鹿威しが仕込まれています。この辺りには、風土記の道に書かれた文字のヒントがありますので、探してみてください。



体験ゾーン

体験工房では、勾玉づくりや土器づくり、藍染めなどの体験学習ができます。

体験水田での古代米の栽培、実った古代米を使った調理体験など、いろいろな体験学習メニューを考えています。

